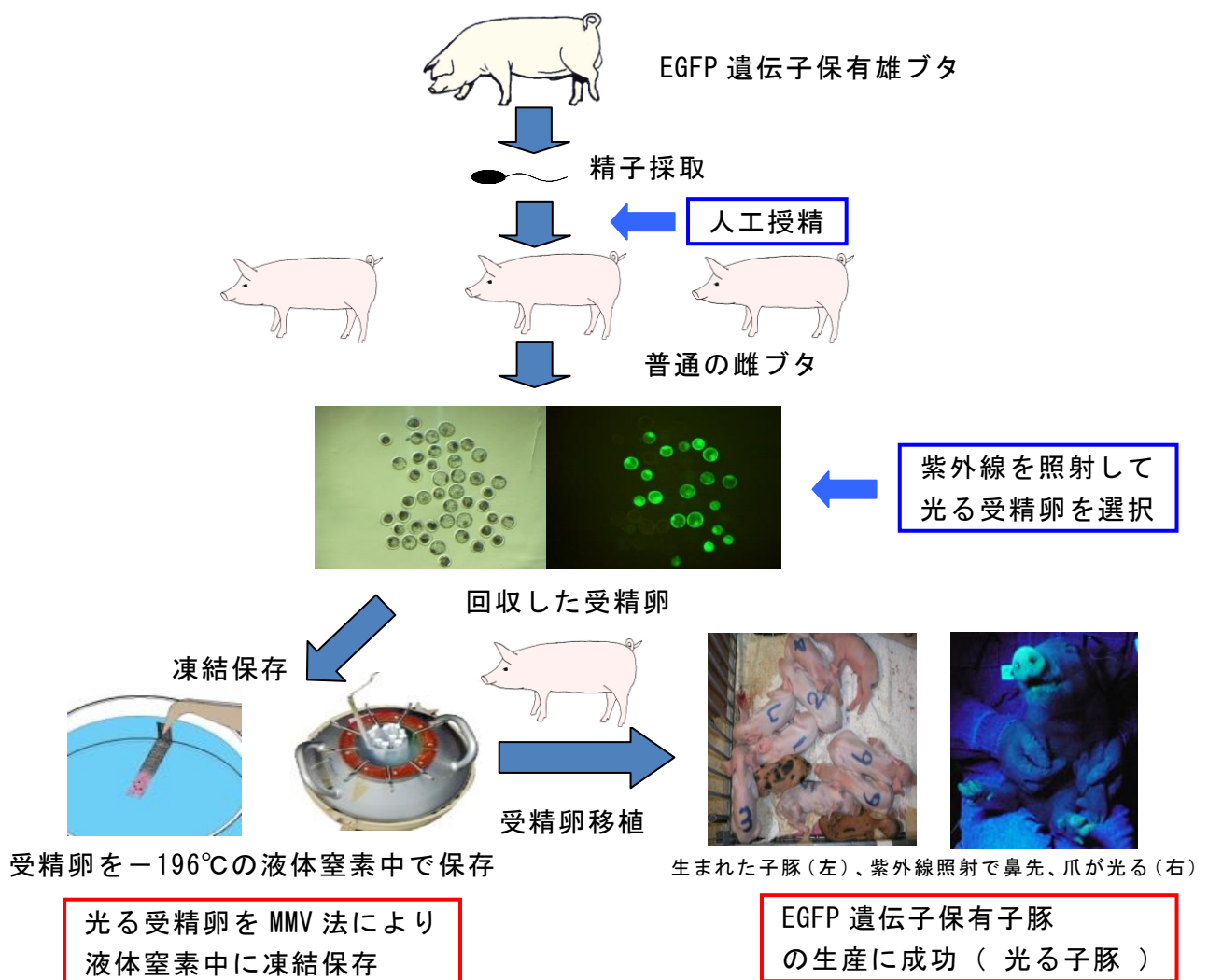


## 医学研究用モデル豚の受精卵凍結保存

医学研究に豚を利用するため、遺伝子を組換えた特殊な性質を持つ豚が作られています。今まで、遺伝子を組換えた受精卵は、雌に移植後に子豚への成長率は1%程度と低く、凍結保存するとさらに生存率が低下するため保存が困難でした。当所では、医療研究用に開発された EGFP 遺伝子（細胞レベルで発光し、マーカーとして利用が可能）を持つ雄の精液を通常の雌に人工授精し、この雌から回収した受精卵を埼玉県が独自に開発した MMV 法 (Metal mesh verifications method: メタルメッシュを用いたガラス化法) で凍結保存して、効率的に EGFP 遺伝子を持つ子豚へと発育させることに成功しました。



この技術の確立により、特殊な性質を持つ医学研究用の豚の生産コストが削減でき、医療技術の開発の促進に寄与します（食用ではありません）。また、養豚分野においても、受精卵の凍結保存技術は県内の優れたブタの遺伝資源の保存に応用できます。

(畜産研究所 養豚・養鶏担当 TEL 048-536-0440)